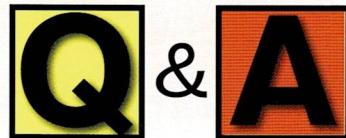


クリーンバリヤ工法



Q クリーンバリヤ工法の特徴は？

- A ●主剤（合成樹脂エマルジョン+水）と、硬化剤（親水性ポリウレタン系樹脂）を特別に設計したノズルガン先端部で反応させ、速硬化性樹脂皮膜を土壤表面や基礎表面に樹脂皮膜を形成します。
- 防蟻薬剤は、合成樹脂皮膜中に含まれ、長期間にわたり効力を持続します。
- 施工精度が外見で確認でき、的確な工事が可能になり施主に信頼されます。
- 皮膜は、特に床下環境では耐久性があり、極めて長期間にわたり性能が持続されます。
- 不要の場合や特別工事が必要の場合には、容易に剥がすことができ、その撤去部分に薬剤の残存はありません。
- 皮膜は、防蟻剤の蒸散による居住者や工事者への人体への影響はありません。
- 皮膜は、地下水、雨水などによる薬剤の流脱がほとんどないため、環境汚染の心配ありません。

Q 防蟻薬剤は認定薬剤ですか？

A クリーンバリヤ工法で使用している薬剤は、（社）日本しろあり対策協会で認定登録（認定20号）されている、環境、人体への影響を最大限に抑えた新薬剤でステルスとハチクサンを使用しています。

Q 主剤の主成分はなんですか？

A たとえば、身近な物としては、木工用接着剤と同様な酢酸ビニールエマルジョンで、クリーンバリヤ主剤は耐久性、造膜性、防蟻薬剤混和性等に独自に改良開発したものです。エマルジョン emulsion 一般的にエマルジョンとは乳濁液のことで、樹脂が水の中に均一に分散した状態の物です。樹脂の種類は何種類かありますが、ポリ酢酸ビニールエマルジョンは、乳白色の水性接着剤。乾燥した皮膜は無色透明で、皮膜の柔らかさは可塑剤の量で自由にコントロールできます。

Q 硬化剤の主成分はなんですか？

A 一般に使用されている家庭で使われているプラスチックスポンジ（食器洗い等）と同等のウレタン樹脂の成分が使われています。安全性の高い物質です。

Q クリーンバリヤ工法どのような所に必要で効果的ですか？

A 最も必要とされる所は、床下の湿気が多い場所です。たとえば、床下湿気が一番伝わりやすく畳や床はジメジメするなど弊害をもたらします。このような床下土壤から湿気の侵入を防ぎ快適環境を取り戻すのがクリーンバリヤ工法です。その他、宅地内に、井戸、池があつたり、近くに河川、農地等がある所では、薬剤が雨水、地下水により流脱し、環境汚染への危惧がありました。しかし、クリーンバリヤ工法では、薬剤が皮膜中に固定されるので流脱は防止され安全な環境が保証されます。



クリーンバリヤ工法はどのような所でも施工できますか？



新築、既設に問わらず、施工にあたって事前調査が必要です。別表（1）参照

◎土壤の表面状態を調査する。◎土壤の水分状態を調査する。◎温度、湿度など環境の調査をする。◎近隣の設備、環境を把握する。

| | 点検項目（状態）基準仕様 | 条件修正 | 工事不可 |
|---------|----------------------|---------------------|------|
| 土壤条件 | 水がにじんでいる | 砂を敷く | |
| | 所々に水溜がある | 水を撤去し砂を敷く | |
| | 全域に水が溜まっている | | |
| | 湧き水がある | | ● |
| | 霜柱が出来ている | | ● |
| | 氷がはっている | | ● |
| | 積雪がある | | |
| | 油が浮いている | 油を撤去する | |
| | 石灰をまいてある | 石灰を撤去する | |
| | 石などが大量にある | 石を撤去する | |
| | カビが発生している | | |
| | 凹凸がある（深い場合） | 平らにする | |
| | ヒビ割れがある | 砂をまく | |
| | 雑草が生えている | 根から撤去する | ▲ |
| | 土間コン打ってある | | |
| | 碎石が敷いてある | 砂で目詰する | |
| | フォルムを敷いてある | 撤去する | |
| | アルカリ土壤である | | |
| 既設 | 酸性土壤である | | ● |
| | 弱酸性土壤である | | ▲ |
| | 強酸性土壤で針状結晶がある | | ● |
| | 砂土質である | | |
| | 粘土質である | | |
| | 乾燥土質である | | |
| | 沼状土質である | 碎石をまく | |
| | 傾斜地である | | |
| | 床下内の換気が悪い | 床下に換気扇設置 | |
| | 床下内の湿度が高い | スーパークリーン、グレートバリヤの併用 | |
| 設備環境条件 | 床高が低く侵入できない | | ● |
| | 床下内に配管が多い | | |
| | 床下内に強風が吹いている | 養生をする | |
| | 床高が低い | | |
| 新築 | 配管工事が未完成である | 配管工事が完成後施工 | |
| | 配管が多い | | |
| | 気温30°C以上である | | |
| 既設・新築共通 | 気温0～5°Cである | 処理液の凍結防止（硬化剤ヒーター使用） | |
| | 井戸、池、田畠、下水、河川が隣接している | | |
| | 養鶏場、畜産場、食品店が隣接している | | |
| | 道路面より敷地が低い。 | 水が入らない工夫が必要 | |

Q 施工後、何日位で効果が発揮されますか？

A 防蟻性能は、新築、既設を問わず、散布と同時に効果が発揮されます。防湿性能、流脱防止性能は、皮膜形成完了時から効果が現れます。皮膜形成時間は、建物の立地条件、床下内温度、湿度、土壌の状態、土壌の含水率等によって変化します。

Q クリーンバリヤ工法の皮膜性状保証は？

A 皮膜性状保証は基本的に10年間です。なお、保証期間内の皮膜に亀裂及び造膜の異状発生（仕様書に基づき正常に施工された場合に限ります）に対しては、無償再施工を実施し、10年後のリフレッシュ工事（有償）により更に10年間の保証を継続いたします。但し木材処理（防蟻・防腐）については、5年毎に点検して必要に応じて処理をします。

安全性

Q クリーンバリヤ工法の施工中及び施工後の臭いは？

A ●施工中
この工法は、防蟻薬剤を皮膜で固定しますが、薬剤の臭いはありません。また、処理液の反応臭は多少臭いがしますが他作業者への影響及び、室内への臭気の流入は、ほとんどありません。

●施工後
数時間後には臭いは感じられない状態になり、完全硬化すると臭いはなくなります。

Q クリーンバリヤの皮膜はポリシートの様に燃えませんか？

A 散布された皮膜は、自燃性はありません。これは、土壌表面に密着状態に皮膜があるためです。極端ですが、その上でたき火をしても皮膜は蒸し焼きとなり燃えることはありません。ポリシートの場合は、火が落ちると燃えはじめシートが熱で収縮したり、ポリシートが火を引っ張った状態になり、結果的に火災の危険が大きくなります。

保守性

Q 床下の状況が平らでなく、傾斜地の場合、どの程度まで散布可能なのでしょうか？

A 粘着性があるため、傾斜地でも薄く数回に分けて散布すれば可能です。

耐久性

Q 床下の布基礎、束石面は、簡単に剥がれてしまうのではないですか？

A コンクリート粒子の間に皮膜がくいこみ、しっかりと皮膜が固定されます。

施工性

Q 主剤と硬化剤の比率が変わった場合は、どんな状態になりますか？

A 主剤：硬化剤 = 10 : 1 ± 0.2 の範囲であれば問題ありませんが、それ以上になるとゲル状になり、皮膜形成は困難となります。

Q 木部処理の油剤が飛散しているコンクリート面でも密着性はありますか？

A 表面上に溜まってない状態であれば、密着性には影響ありません。

Q 複数回で散布する場合は？

A 敷設後、2分～3分で造膜するので、その後再散布して下さい。

Q 施工中、誤って目的物以外に処理液が付着した場合は？

A 水に浸した雑巾を使い、速やかに拭き取って下さい。皮膚に付着した場合は、水で洗い落とした後石鹼でよく洗って下さい。

管 理

Q 主剤の取り扱い管理について？

A 主剤は「消防法」上の非危険物、「毒物及び劇物取締法」上の普通物質に該当しますが、保管は5°C以上の冷暗所に保管して下さい。
使用期限は、6ヶ月です。

主剤の配合は水と等量に希釈し均一溶液とします。希釈された処理液は、少量(0.1%～)の油類が混入しても差し支えありませんが、多量になると処理液の中に沈殿しますので注意して下さい。

Q 硬化剤の取り扱い管理について？

A 硬化剤は、「毒物及び劇物取締法」上の普通物質「消防法」上の危険物に該当します。危険物区分は第4類第1石油類ですから、危険物取り扱い基準に基づいて取り扱って下さい。水と短時間で反応し、固体物(スポンジ状)になりますので、保管は水気のない冷暗所に保管して下さい。硬化剤は原液で使用します。使用期限は、6ヶ月です。(未開封時に限る)

Q 余った処理液はどうするんですか？

A 硬化剤の場合は、缶蓋をきちんとして、硬化剤の取り扱い管理に基づいて保管して下さい。主剤の処理液がタンク内に残った場合は、次回に使用するまで主剤の取り扱い管理に基づいて保管します。専用タンクの場合は、そのままの状態で使用できますが、樹脂分が沈殿しますので必ず攪拌して使用して下さい。

その他

Q 施工指導、研修会などしてもらえますか？

A 日時、場所等を事前にご連絡下さい。指導、研修会は実施できます。また、施工現場受注があった場合も指導員が実技指導も行います。

Q 他の工事と併用して施工できますか？

A ◇床下換気装置との併用
先に床下換気装置を設置し、配線工事が完了後試験運転を行い、正常に作動しているか確認してから、クリーンバリヤを散布して下さい。

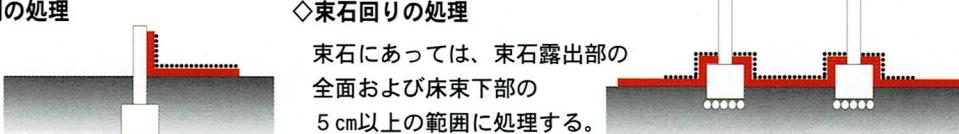
◇床下調湿材との併用

◇土壤表面および基礎内側の処理

土壤表面の処理には、床下の全面に對して処理をする。

◇束石回りの処理

束石にあっては、束石露出部の全面および床束下部の5cm以上の範囲に処理する。



①調湿材を床下全面に敷きこむ場合

クリーンバリヤを吹き付け散布後、開口部より順次、敷きこんで行きその上を乗って工事を行って下さい。開口部の真下は多少多めに敷き込み、作業性を確保して下さい。

②部分的に敷きこむ場合

あらかじめ敷きこむ場所は、近くに床下調湿材を持っていき、クリーンバリヤを吹きつけ散布し、その場所が終了した時点で敷き込みをして下さい。

③床下換気装置・床下調湿材との併用

まず床下換気装置の工事を完成させる。次にクリーンバリヤを吹きつけ散布し、工事が完了してから床下調湿材の敷き込みを始める。工事方法は上記(床下換気装置との併用、床下調湿材との併用)施工方法に従って実施して下さい。